



けやきだより

No. 33

発行者:社会福祉法人みらい

◆ 中活動事業

- ・社会就労センターけやき
 - ・第2けやき
 - ・第3けやき
 - ・けやきカレッジ
 - ・けやき可児

◆共同生活援助事業(グループホーム)

- ・生活支援センターCSポート
「ぶなホーム1,2,3,4」「にれホーム1,2」
「ならホーム」「どちの本ホーム」

◇相談支援事業

- #### ・リンク

◇放課後等デイサービス・児童発達支援事業

日中一時支援・移動支援事業

- ・サポートセンター Uライフ

◇企業主導型保育事業

- #### ・かえで保育所

平成30年度も残すところ3ヶ月となりましたが、現状の法人事業の運営について概略の説明を致します。

法人事業 状況報告

グループホーム事業では、ぶなホームに空きが出た事と職員の採用があつた事で、12月から利用者4名の入居と1名の一人暮らしへの移行を準備しています。この結果、GH利用者38名、一人暮らし3名の計41名の方の地域生活が完了となります。今後も職員の採用があれば、可児市や他の市で設置を計画したいと考えています。

また、第3けやきでは現在の事業区分の就労移行支援と就労継続B型が利用者の状態との齟齬があり、特に就労移行ではここ数年第三から就労された方ではなく、また生活支援を重点的に行うべきと感じられる方もあります。そこで、就労移行を廃止し就労継続B型と生活介護への事業変更を検討していきます。本人の意向と保護者と施設側とで12月末を目途に話し合いを実施し、新たな事業体制への申請をする予定です。

ただ、現在当法人での最重要課題は、職員の確保です。職員さんが色々な理由で退職される方があり、この補充で職員の採用を行っていますが、多治見労基署管内の有効求人倍率が2・3(9月現在)ということもあり、中々充足していないのが現状です。

もちろん国の定めた職員配置基準は満たしていますが、加配の分が配置できず利用者支援で今まで通りに出来無いことでご迷惑をおかけしているようで、申し訳ありません。

ただ今年度末までに新卒も含めて数名の方の採用が確定しており、来年度始めを目途にきちんととした支援体制が確立できると考えておりますので、暫くの猶予をお願い致します。

第14回けやき祭り開催!

～平成30年10月20日(土)～

平成30年10月20日(土)
昭和小学校体育館にて、第14回
けやき祭りを開催しました。当日
は、前日夕方の大雨がウソのよう
なすばらしい秋晴れとなりました。
今年も多くの方が足を運んでくだ
さり、楽しんでいただきました。



みらいの音楽隊の発表です！



かつこよくダンスも披露しました☆

開会式では、理事長の挨拶、来賓紹介が行われ、司会者による開会宣言で祭りが始まると同時に、模擬店も開始いたしました。今年もけやきで作ったクッキー、豆腐、縫製品や保護者会の焼きそば・けやきもちをはじめとした飲食物、フリーマーケット、射的やお菓子釣り、プラ版、フリスビー、お祭り雰囲気たっぷりの綿菓子など、子供から大人まで楽しめる模擬店

が並んでおり、大勢のお客様で賑わっていました。

ステージでは、利用者さん・職員で構成された「みらいの音楽隊」

が「U・S・A」など、歌やダンスをクールに披露し、会場を沸かせてくれました。また、元気い

ズさんの鮮やかで素敵なダンスに、平和中学校吹奏楽部のみなさんの若々しい演奏、恒例となつたパン食い競争、飛燕タジミさんのワクワクするようなよさこいで、みなさんも一緒に加わり、大はしゃぎ。大盛り上がりでフィナーレを迎えることができました。

けやき祭りでは、利用者さんが小さなお子さんにみせる優しさを垣間見たり、元気に声を出して販売する姿がたくさん見られました。自分だけ楽しいわけではなく、知らず知らずのうちに、みんなも楽しく盛り上がる環境をつくり育てていることに、ちいさな喜びを感じました。

最後になりましたが、けやき祭りを開催するにあたり、当日前まで



祭りは最高潮でフィナーレを迎えました。

ご協力いただきました関係機関の皆様、ご来場いただきました皆様に厚くお礼申し上げたいと思いました。

けやき 伊野かおり

今年のテーマは「みんなの笑顔が見たいから」。祭りの開催中のみならず、練習中や準備中でも、例年以上に笑顔が咲いていたよう

に思いました。



司会の進行をしました。



クッキーの販売をしました！



保護者会の販売がんばりました！



机をピカピカにふきました。



縫製品卖りました◎



白熱！パン食い競争！！



フリスビーで遊びませんか？



楽しんでます☆☆

我が子の障がいを受け入れた時

我が子の障がいを受け入れた時

堀
美香

我が家の三番目の子、「男の和暉。とても可愛くて手が掛からずよく寝る子だつた。ある時、実家の父（おじいちゃん）が、名前を呼んでも振り返らない。耳が聞こえないのでは？と口にし始めた事が切つ掛けとなり、1歳半の時に総合病院の耳鼻科で聴力検査を受けました。問題なしという結果で安堵する。1歳半の検診で1歳の時に口にしていた単語（言葉）は話せなくなってしまった。と、伝えたが、様子をみましようと、その頃は深刻に考えていたかった。

1歳2ヶ月から通い始めた児童館の「かるがもサークル」には、お兄ちゃん（6歳）お姉ちゃん（4歳）の弟や妹と一緒に、知り合いのお母さんが多くいた。がやがやして子供の叫ぶ声や泣き声が嫌なのかその場にいらねず、制止させようと押さえつけると泣き叫ぶので、職員さんが準備してくれださった行事に初めから参加できず、別の部屋で毎回2人で過ごす。おんぶされることが出来ずのけぞ

る。歩き始めが早く常に走り回り飛んだり跳ねたり、落ち着きがない。高いところに登る。等、やんちゃぶりを發揮し始めた。周りとは言葉の面で大きく成長が遅れていたが、早生まれだからとあまり気にしないようになっていた。でも、1歳半を過ぎても、言葉は出ない、名前を呼んでも振り向かない、手を放すと呼び止めても止まらず手が離せない。偏食で牛乳とチョコレート菓子しか食べられないなど問題が多く、さすがに悩み始める。そんな中、保健センターから2歳の歯科検診の案内が来た。同じ生まれ月のお子さんと過ごすうちとても不安になつた。会話している子。親が声を掛ければ待てる子。お母さんの車のキーをおもちゃ代わりにして待てる子。そんな中、我が子は、何をしても動き出すで制止させようと抱きかかえるが泣き叫ぶので、部屋の外に出た。中には言葉の話せない子がいて、その子が窓の外を指さし声を出してい。お母さんが「鳥さんが沢山飛んでいるね」と、優しく声をかける姿を見て、はつとした。私たち親子はこうした意思疎通(コミュニケーション)で

ション)がない事に気づかされ、不安というより怖くなつた。和暉は指さしもない。その日の娘の保育園のお迎えの時に、以前から相談していた担任の先生に一部始終を話し、児童発達支援センターを紹介され、H12年4月(2歳2ヶ月)より平日毎日通うことになつた。初日の日に集まつた子どもさんは何らかの問題が合つてここにみえるが、その中でコミュニケーションが取れてないのは私たち親子だけのようを感じ、これは大変なことが起きている。と、これまで以上に不安になり、先生に愛知県コロニーを紹介してもらい。その日のうちに予約をするが最短で8月上旬でした。お兄ちゃん、お姉ちゃんと同年の子を持つ友だちに常に相談していたので、予約すると7月と言われたが、その後キャンセルが入つたと、5月にいけることになり、主人と3人で出かけて行きました。子どもの生い立ちを話、2時間ぐらい遊ぶ様子など見られ、先生から自閉症と診断されました。それから、「この先生閉傾向と診断される先生が見える

かもしませんが、自閉傾向の傾向は、医者が親にやんわりと伝えるために使った言葉であり、どこの医学書を見ても傾向の言葉はありません。加えて、自閉症は治らない障がいだと言われた。ただ、親さんの時代にも学年での子は何だかみんなと変わっていると感じた子がいたと思う。勉強がそこそこできれば、小学校も行けるかもしれない。それまでの成長の伸びしろで変わってくる・・・。何を言っているのだろうと、受け止めきれない。主人が脳波の検査も何もしてないのに何故断言できるのか?と思わず聞き直した。

「今まで何千人と診てきた経験で99.9パーセントそうだとお話ししています。」と、話された。涙が溢れ顔を上げたらこぼれそうで先生の顔が見られなかつた。会計の時に看護婦さんに優しい言葉を掛けられたので、とうとう涙が溢れてきて、主人が代わりに会計をしてくれた。

帰りの電車で、何も知らず無邪気にしている息子とは対照的に、主人も私も言葉をなくしていた。話したら泣けてくるから。和暉にだけにお互い声を掛けていた。この子はもちろ

ん、兄姉の将来のことを考えると不安でどうにかなりそうだった。その日、心配して結果を待つていただろう友だちは、どうしても電話できなかつた。あくる日、上二人を送りだし、その足で友だちの家に行つて、自閉傾向と言われたと傾向の言葉を付けて涙ながらに話した。まだ私の中で受け入れなど出来ていないし、そもそも自閉症が何なのかもよくわかつていなかつた。でも説明していくうちに、私が何故こんなにも落ち込んでいるのか分かつて欲しくて、傾向の意味など先生に言われたこと全て話した。一番の理解者が出来心強い。その日、それから療育センターに行き先生に話す。先生は初めから分かっていたようだつた。先輩ママたちの会があるとすぐに紹介してくれださつた。皆さん良い方ばかりで、私も不安を聞いて下さつた。どの方も明るく子どもの障がいを受け入れ接してみえる方ばかりで勇気をもらえた。私のよりどころとなり相談や情報をもらえる場所になつた。実家の父や母に話すのには数日後になつた。やめてしまおうかと思つた、「かるがもサークル」も通うことが出来

た。団体行動が出来ない我が子が誤解されるのがかわいそうで、自分もえらかつたので先生や仲の良いお母さん方に話していった。同年の子どもたちの成長はめまぐるしく可愛い。その姿を見ることは辛かつたけど、話したことで私たち親子に声を掛けやすくなつたようだつた。

そんな温かい目が何より私たち家族の力になつてくれた。色々な方に話すうち子供の障がいを受け入れて行けたように思う。保育園には加配の先生が1人付いて下さり、通うことが出来た。その頃単語も出始める。魚が好きで、サメの絵を先生の手を紙に持つて行き何度も要求して描いてもらつていた。（クレーン現象）朝起きると、隣に寝ているはずの和暉がいなくて、探しに外に出ると川にいたり、夜は夜中0時を過ぎても寝ない。給食が食べられずチョコパンかゆかり掛けご飯を持たせる。牛乳は好き。その頃の石井クリニックの先生は、優しく「食べられるものがついて良かつた。どんな偏食の方も10歳までには食べられるようになるから心配はいらない。」と、言われた。幼稚園に入ると、駄知の2園

が一緒になるので和暉の障がいのことを入園式で話してもらつてもよいと園長先生に相談したが、子どもは子ども們の感覚で付き合つていくのを練習の頃は、出来ていたことが出来なくなつたり、らせんの様な成長をすると説明を受けていた。そんな時、あるお母さんから、「突然すみません。息子が『和暉君はいつも教室から出ていくし、外で先生と遊んでいるけど叱れないよ。どうして?』とか、『給食も食べなくとも叱られないよ。どうして?』と、家で聞いできます。加配の先生が付いてみえるので、何かしら事情が有ると思ひます。もしよければ教えていただけますか?私も子供もどう接して良いのか分からないので、教えていただければ、子どもにも説明できますし。」と、話しかけられた。この事が切っ掛けで、全園児の母親宛に、私の書いた和暉の生い立ちと、自閉症の記事の新聞、「自閉症とは」という分かりやすい文章を付けて配布してもらいました。あくる日から優しく関わつてきたり、お母さん方

が一緒に面識ないような方まで和暉の目線で声を掛けてくださるようになりました。親さんから何人も励ました。お手紙を頂きました。「バイバイ」と声を掛けても、話しかけても、返事がなくとも聞こえている。それが和暉君と見返りがなくとも声を掛けられるようになりました。お化け事がなくとも聞こえている。それが和暉君と見返りがなくとも声を掛けてくれるようになりました。お化けと魚が好きとわかつてくれいて、絵を描いてくれたり、絵本を見せてくださいました。和暉も絵を描くようになりました。知つてもらう事で良い環境を持つことが出来ました。本當はみんなさんと同じ小学校に進学したかったですけど、勉強の前に、生活や社会のルールを覚える方が先でしたので、迷いなく東濃特別支援学校に入学しました。成長の過程は書き切れません。。。和暉も20歳になりました。聴覚過敏や独特の世界観と相変わらずのマイワールド君です。出会つた皆さんがどの場面においても、和暉の良き理解者となり優しさや勇気を下さり、ここまで成長出来ました。聴覚過敏や独特の世界観と相変わらずのマイワールド君です。出会つた皆さんがどの場面においても、和暉の良き理解者となり優しさや勇気を下さり、ここまで成長出来ています。これからもよろしくお願ひします。

岐阜障害者スポーツ大会（秋）に参加しました！

～9月24日（月）～

9月24日（月）毎年恒例のスポーツ大会秋大会が岐阜県メモリアルセンター長良川競技場で開催されました。けやきをはじめとする各事業所39名の利用者の方々が参加され、フライングディスクや陸上競技に汗を流しました。

会場に向かう車内では、好記録を狙うと意気込んでいる方や体を動かすことを楽しみにしている方、様々な思いが聞こえてきました。

走、400メートルリレーに出場しました。400メートルリレーでは、利用者さん達が順番を考え、ベストな状態で臨みました。良いタイムが出ると皆で拍手をして喜んでいる姿が見られました。

フライングディスク競技は、輪になつてているのにディスクを入れるアキュラシーと、距離を競うディスタンスの2種目あります。競技が終わり成績発表になると、自分の名前が呼ばれガッツポーズをして喜んでいる方が見られ、多くの方が笑顔で過ごしていました。

いずれの競技も、日頃交流のない事業所の皆さんが集まり、和やかに過ごし、楽しげな笑い声が聞こえる休憩の時間でした。

バザーの出店もあり、買い物を楽しむ方々もいました。

帰りの車内では「また、来年も頑張って良い成績を出すぞ！」と言つて、賑やかな笑い声が聞こえました。

当日まで雨が降るかもしれないと思配をしていましたが、雨も降ることなく天候に恵まれました。

開会式を終え、それぞれのフィールドでそれぞれの目標に向けて準備を始めました。陸上競技では、50メートル走、100メートル

悔しい思いをされた方などいろいろみえたと思いますが、皆さんのお姿を見て、また来年も参加していただきたいと思いました。

第2けやき支援員 菅内 善朗



平成 29 年度 社会福祉法人みらい 決算報告

貸借対照表(平成30年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部			負債の部		
勘定科目	当年度末	前年度末	勘定科目	当年度末	前年度末
流動資産	406,082,419	492,173,666	流動負債	287,711,262	378,004,135
固定資産	550,261,667	560,084,282	固定負債	7,243,668	6,915,795
			負債の部合計		294,954,930
			基本金	22,500,000	22,500,000
			国庫補助金等特別積立金	275,601,903	292,659,442
			その他の積立金	19,099,795	25,099,795
			次期繰越活動収支差額	344,187,458	327,078,781
			(うち当期活動収支差額)	11,108,677	10,977,721
			純資産の部合計		661,389,156
資産の部合計	956,344,086	1,052,257,948	負債及び純資産の合計	956,344,086	1,052,257,948

事業活動収支計算書（自平成29年4月1日～至平成30年3月31日）（単位：円）

収入の部			支出の部		
勘定科目	当年度決算	前年度決算	勘定科目	当年度決算	前年度決算
就労支援事業収益	68,817,192	64,493,866	就労支援事業費用	68,817,192	64,493,866
障害福祉サービス等事業収益	451,175,913	410,770,621	人件費	374,818,273	318,632,262
その他の事業収益	21,135,030	8,434,690	事務費	43,198,625	34,163,750
経常経費寄付金収益	135,000	400,000	事業費	54,188,337	51,140,636
雑収益等	10,233,536	7,574,987	減価償却費等	36,650,901	22,640,235
国庫補助金等特別積立金取崩額	18,280,539	10,539,287	国庫補助金等特別積立金積立額等	1,223,000	181,397,000
サービス活動外収益		0	サービス活動外費用	2,304,205	0
特別収益(施設整備等補助金等収益等)	22,532,000	181,232,019	当期事業活動増減差額	11,108,677	10,977,721
合計	592,309,210	683,445,470	合計	592,309,210	683,445,470

平成29年度決算は以上のようになりました。

資産に関しては、平成28年度事業としてけやき可児、かえで保育所を整備しましたが、29年度に補助金の未収分の入金と工事代金の未払分の支払いが完了しましたので、流動資産、流動負債それぞれが前年度比大幅減となっています。

就労支援事業については、29年4月に開始したけやき可児の弁当、クリーニング、サブコンの分が丸々純増となりました。従来の事業については売上が減少した事業もありましたが、施設外作業の受注が増えており、全体としては開所以来15年連続で増加となっております。

福祉サービス活動等についても、けやき可児開所に伴う利用者の増加と保育所の開所により、前年度よりも5、300万円ほどの增收になっています。人件費については、2事業所の新規開設と利用者増による職員の増加により、前年度より5、600万円ほどの増加となりました。

最終的な事業活動収支は、前年度とほぼ同額である約1,100万円の黒字となりました。

地鎮祭が行われました



利用者さんの増加とともに多様化するニーズに応えていくために、第2回けやきの増築工事を行うこととなり、平成30年7月30日、神主様、熊谷設計様、飯田建設様にお集まりいただき、工事の地鎮祭が執り行われました。

11月末で工事もほぼ終了し、現在は作業場として使用しています。多くの方の思いが詰まつたこの作業場で、利用者さんとともに、職員も成長し続けたいと思います。

けやきへご寄付等戴いた方たちのご紹介 (30年1月現在、順不同)

※敬称は省略させて頂きます

寄附金等を戴いた方

(有)丸元コンフォート	(株)セキュリティハウス	㈱吉川組
㈱熊谷設計	11区区長大澤忠昭	根本外科医院
渡辺道義	尾石友弘	谷敏
安在比奈		

物品のご寄付を戴いた方

お名前	寄附内容	お名前	寄附内容
水野・森本法律事務所	ジュース・お茶	尾前純雄	野菜
渡辺義哉	タオル・ハンカチ・ボールペン	熊田雅代	ジュース
佐々木陶器(株)	お茶・ジュース	木塚明	切手
宮澤則子	縫製用綿、布	田代美子	柿
鵜飼秀吉	柿・大根	太田邦夫	着物

ボランティア活動を戴いた方

元気イーズ	平和中学校吹奏楽部	飛燕一多治見	大嶽肇
笠瀬美里	林冬美	水野加代	野々川尚希

本編の中にもありますが、10月20日に近隣の昭和小学校体育館をお借りして、14回目のけやき祭りを開催しました。今年も多くの方にお越しいただきましたが、第1回目の祭りはけやき開所2年目、保護者会の皆さんと一緒に駐車場に組み上げた自作のステージから始まつたことをふと思い出しました。以降、自作ステージもバージョンアップして雨よけの屋根が加わつたり、保護者会の模擬店メニューも試行錯誤を繰り返しながら、質、量ともに進化を遂げていきました。けやき祭りの歴史はイコール保護者会の歴史でもあります。会の運営に関しても、毎年保護者会の全面的な協力をいただき、度はさらに趣向を凝らしたけやき祭りを開催するために、また、利用者と保護者会が「両輪」となつて前進していくたいと思います。